

本年度の重点	1	学習指導の充実…「確かな学力の定着」への取り組み
目標（評価規準）	指導と評価の一体化を推進することにより確かな学力の向上に取り組む。	
重点に係る現状 設定理由	教員の学力観が、ともすれば「知識・技能」の観点に偏っている傾向がみられる。学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、児童に育てたい資質能力を明確にし、指導と評価の一体化を図るといった「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進することにより、確かな学力の向上につなげていく。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、B評価が多くを占め、C評価も数名見られた。新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」について真摯に学び授業改善に努める姿があったが、その難しさを改めて教職員が実感した結果でもある。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、基礎・基本充実の取組に関する設問においてA Bの計が9割を越え、今年度は99%（A評定は64%）に達した。「確かな学力」の土台となる基礎・基本充実に関して、安定して高評価をいただけている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	指導と評価の一体化に関する研修を行い教職員の意識改革を図るとともに、年間を通して日常的に管理職が授業を参観し指導助言に努めてきた。また、全教員が研究授業を行ったり、講師や指導主事を招聘しての研究会を行ったりするなど、研究推進委員会を中心に組織的に授業改善を図ることができた。ただ、課題も顕在化してきている。すぐに成果が出るものでもないが、出来ていないことを自覚している教職員が増えてきていることを、期待感をもってプラスにとらえている。
学校関係者評価結果	学校の方向性を支持する。教育課程が新しくなったことで、苦勞も多いと思うが継続して学力向上に努めてほしい。基礎・基本の定着が保護者に認められていることは評価できる。基礎・基本は中学校の学習にもつながるので、さらに充実させてほしい。
最終改善方策	引き続き、児童に育てたい資質能力を明確にした上で指導と評価の一体化を推進し、授業改善を図る。そのための方策として三浦市の研究指定を延長（4年目）し、全教員が公開授業を実施するなど内容を深化させる。また、第3回公開研修会を12月3日に開催する。外部講師の活用も継続し、教師個々の力量を高める。成果があがっている朝の取組「思考の日」を継続し、さらに深い学びを目指す。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	学年・学級経営の充実…「豊かな心の育成」への取り組み
目標（評価規準）	人とのかかわりの中で、人権尊重の精神を涵養するとともに豊かな道徳性を養う。	
重点に係る現状 設定理由	他者とのコミュニケーション不足により誤解や行き違いが生まれ、健全な関係性を保つことが苦手な児童がみられる。人とのかかわりの中で、「自分の大切さとともに、相手の大切さを認められる」人権感覚を養うことにより、思いやりをもって他者と接することができる豊かな心の育成を図る。また、教育活動全体を通してコミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働することの価値に気づかせる。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、ABの計が100%となったが、B評価が大半を占めた。教職員は手ごたえを感じているが、さらに上を目指そうという意識が現れているのかもしれない。また、コロナ感染症に関わって、人権教育を徹底し成果が上がったとの記述があった。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、児童指導の設問においてABの計が9割を越え、今年度は97%（A評定は64%）に達した。また、各学級の児童の様子に関してルールを守り楽しそうであるという結果が大多数であった。 （「楽しそう」AB評定96%、「ルール、協力」AB評定99%）
自己評価結果 （見解と改善方策）	今年度、子どもたちに育てたい資質能力として「コミュニケーション能力」を掲げ、すべての教育活動において重点として位置づけた。仲間と協働して何かを成し遂げる経験を積み重ねることで自己肯定感を高め、他者を尊重する思いやりの心を育むことに尽力した。コロナ禍にあり、人権教育の充実が求められる中で、教職員が意識して取り組んだことで一定の成果を上げたと考えている。
学校関係者評価結果	学校の方向性を支持する。今年度は、コロナ不安からの人権侵害などが心配されたが、学校が一丸となって人権教育に取り組まれているのはありがたい。人との関係づくりでは挨拶が欠かせない。しっかり挨拶のできる子を引き続き育ててもらいたい。
最終改善方策	コミュニケーション能力を発揮し仲間と協働して課題解決するなど、自己肯定感を高める活動を継続して推進する。また、「思いやり」を道徳教育の重点とし教育活動全体を通して育成を図る。チームによる児童指導を充実させるために支援担当や担任以外の教師を含めた全職員で協力体制を構築する。小規模化が進み職員が減る中でサポートしあう意識を大切にする。心の悩みや家庭の課題に対してはSCやSSWと連携し必要に応じて医療や福祉、警察といった外部機関とも連携する。いじめ未然防止に努め、人権感覚を大切にした児童指導を充実させる。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	地域・家庭・学校との連携…「地域教育力の活用」への取り組み
目標（評価基準）	「地域教育力」の活用を図り、豊かな教育活動を推進する。	
重点に係る現状 設定理由	特に海洋教育において、地域の環境資源を生かした豊かな教育活動が展開されている。今年度は、体験学習に加え、児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組む教育活動を推進していく。また、学校の状況や特色ある教育活動のねらいを積極的に情報提供し、家庭・地域・学校がともに連携して子どもたちを育む風土を醸成していく。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、Bが50%、Cが50%でA評価がなかった。コロナ禍にあり、地域、家庭、学校がともに連携していくことが難しかったとの記述が多く見られた。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、家庭との連絡・相談の設問においてABの計が9割を越え、今年度は94%（A評定は61%）であった。学級通信が工夫されていて大変分かりやすいとの記述があった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	本校の特色である海洋教育と野菜の栽培活動については、地域の協力を得てほぼ規模を縮小することなく実施することができた。ただ、課題だった探究的活動が充実したかという点、コロナ禍の中かなり厳しかった。人と関わる活動が基本となるので、社会状況を鑑みながら工夫していく必要がある。運動会や学習発表会など子どもたちの成長を実感していただく場を、感染予防対策を講じながら提供できたのは、連携を図るうえで効果的だった。
学校関係者評価結果	学校の取り組みを支持する。保護者アンケートの回収率が98%と高いのは素晴らしい。学校と家庭との連携が図られている証とも言える。今年度はコロナ禍で、できる事が限られていたが、工夫しながら取り組まれていた様子がわかる。さらに、地元産業での体験学習などに力を入れてほしい。
最終改善方策	地域の教育資源を生かした教育活動を継続して推進していく。体験学習にとどまることなく、探究型の学習を追求し積極的に地域に出てそこで生活する人々と交流を深める。個々の職員のコミュニケーション能力を向上させ、授業づくり・児童指導などに地域の力を生かせるよう努める。地域の学生や経験豊かなボランティアの力を借りながら指導を充実させる。SSWやSCなどの専門職との協力関係を継続する。感染症予防対策など危機に際しても地域・関係機関と連携し児童の安全を守り、課題を解決していく。